

(素案)

平成30年度篠山市地元就職応援検討委員会報告書

～地元就職の「種をまく」ことから始めよう～



平成31年3月

篠山市地元就職応援検討委員会

はじめに

少子化や人口減少が加速する中、地域経済の活力を維持していくためには、若者の地元就職・定着を図ることが喫緊の課題になっています。帝国データバンクが7月に発表した「人手不足に対する企業の動向調査」によると、正社員が不足していると回答した企業の割合は50.9%と全体の半数を超え、年々人手不足が深刻さを増しています。また、若年労働力人口（15～34歳）は2008年に2,000万人を下回るとともに、総労働力人口に占める割合が30%を下回り、2016年では1,720万人（25.8%）と減少傾向が続いています。

篠山市には、篠山鳳鳴高等学校、篠山産業高等学校、篠山東雲高等学校と、特色ある3校があります。それぞれの特色と魅力を維持しつつ、ふるさとを担う人材を輩出するよう、各高校と連携しながら取り組んでいかなければなりません。

委員会では、積極的な地元就職の応援に関する取組を検討するため、地元就職に関わる関係者が集まり、幅広い意見を聴き、それぞれの立場での課題等を共有することで、それぞれの弱点や強みなどが見えてきました。「企業には独自に自由な取り組みができるが、予算面や費用対効果を考えると積極的な動きができない」「学校や保護者には地元就職につながる影響力があるものの、地元就職が全てではないというジレンマがある」「行政では地元就職に対して連携を保ちながら施策を推進できるが、本当の意味での主体とはなり得ない」などといったものです。

報告書では、これらを共有した上で、それぞれの強みを生かすような取組を検討しました。離職者や移住者への取り組みも当然必要ですが、今回は篠山で生まれ育った高校生や大学生の地元就職応援に向けた取組を中心に行った検討結果について報告します。

平成31年3月

篠山市地元就職検討委員会

目次

はじめに

1 地元就職の応援に関する検討結果の報告

検討概要

- (1) 種をまくこと
- (2) きっかけづくり
- (3) 体験できる場

2 篠山市地元就職応援検討委員会活動記録

- (1) 委員会委員名簿
- (2) 活動記録
- (3) 会議録・資料等
- (4) 篠山市地元就職応援検討委員会設置要綱

課題を逆転の発想でとらえ、
連携を深めることで克服

(1) 種をまくこと～ふるさと教育、キャリア教育、制度

- 1 ふるさと教育が生きてくる仕掛けづくり
- 2 篠山ならではの仕事、働き方の提案
- 3 シミュレーション冊子の作成・配布

(2) きっかけづくり

～より具体的な情報提供、キャリアの積み方や実例

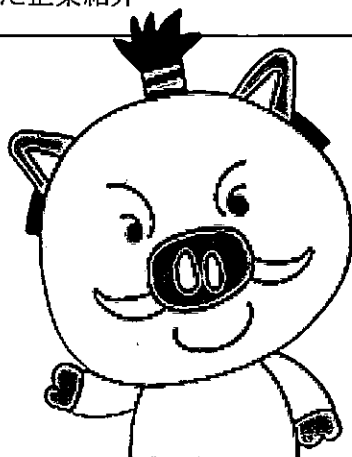
- 1 市内高校との連携（連携・情報交換、先輩が後輩に伝える機会）
- 2 「しごと情報サイト」の充実
- 3 学生インターンシップの充実
- 4 イベントの開催

(3) 体験できる場

～身近で行きやすい企業、敷居を低く、企業との関わり

- 1 企業からの出前授業
- 2 企業に気軽に行ける環境づくり（企業訪問の日）
- 3 動画を活用した企業紹介

地元就職の促進



(1) 種をまくこと～ふるさと教育、キャリア教育、制度

篠山市のふるさと教育では、篠山の良さを学び「篠山ほど良いところはない」「篠山が大好きだ」「篠山で住みたい」という気持ちを育てる「丹波篠山学」（丹波篠山を学ぶ授業）を行い、自らがいろんな形でふるさとを担うことの大切さを教えています。

この種を大きく育てるため、それぞれの立場でできる取り組みを考えていく必要があります。ふるさと教育への積極的な関わりを進めるとともに、地元就職への動機づけとなる制度の導入や見直しなどを検討する必要について検討しました。

具体的な取組の提案として

1 ふるさと教育が生きてくる仕掛けづくり

ふるさと教育という種をまいたら、地元就職という花を咲かせるまでの間、みんなで育てていく必要があります。地元高校、地元企業、行政、市民が連携し、地元就職の機運を高めることが大切です。

2 篠山ならではの仕事、働き方の提案

ふるさと就職の実現には、都会志向・大企業志向の考え方に対して、逆転の発想が必要であると考えられます。都会や大企業には無い、篠山ならではの仕事や働き方を提案していくことが大切です。

地元高校生、就職活動を目前に控えた大学生などのニーズをきちんと把握し、効果的にPRしていく必要があります。

3 シミュレーションの作成

地元就職を考えるきっかけができれば、次は篠山での生活のイメージを膨らませるための取り組みが必要となります。ふるさと教育という種をどう咲かせるのか、イメージができるシミュレーションを示すことが、若者の篠山での生活がより具体的に考えるきっかけになるのではないのでしょうか。

(2) きっかけづくり～より具体的な情報提供、キャリアの積み方や実例

いくら種をまいても、放っておくと育たないこともあります。次に必要なことは、水や肥料を与えるといった、「地元就職」の芽を出すためのきっかけづくりが大切であると考えられます。

学校・企業・行政など、それぞれの立場を理解し、その上で情報交換を行っていくことで、大きな成果が得られます。

具体的な取組の提案として

1 市内高校との連携強化（連携・情報交換の場、先輩が後輩に伝える機会）

高校卒の就職者にとっては、保護者や学校（進路指導教諭等）との関わりが大きいと考えられます。定期的な情報交換や情報共有を進め、芽を出させるための必要な取り組みを考えていく必要があります。

2 しごとサイトの充実

大学等への進学者に対しては、下宿等で一旦ふるさとを離れる人が多く、積極的な情報発信により地元就職や篠山を発信していく必要になると考えられます。今や、スマートフォン一つで就職活動をする時代です。情報の発信には欠かすことのできないツールとなっています。

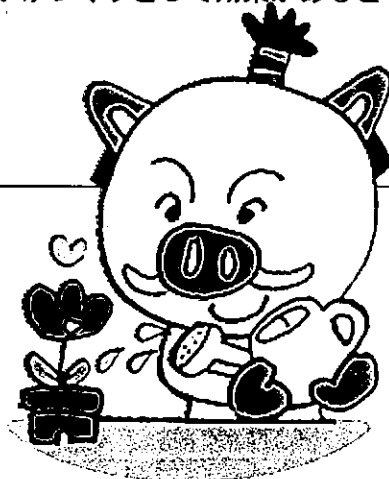
3 学生インターンシップの充実

大学生の就活はインターンからとも言われています。一定の期間実際に働くことで、会社やその仕事の「ありのまま」を感じ、体験することができます。「この企業は、どんな雰囲気なんだろう・・・」「自分がどんな職業についたらいいかわからない・・・」。

自分を知り、目指す道の幅を増やし、興味の幅を広げられるきっかけにもなります。

4 イベントの開催

ふるさとを離れた若者には、都市部でのイベント、地元開催の同窓会など、定期的なふるさと篠山のことにふれるきっかけづくりとして効果があると考えられます。



(3) 体験できる場～身近に感じる企業、敷居を低く

多くの企業は自社のPRに加え、地元高校生等との関わりを増やすことも望んでいます。企業と学校が連携した取り組みが広がることで、より深く地元企業を知り、興味を持ってもらうことができます。

体験できる場の提供や、企業に足を運ぶ機会など、身近に感じることでできる企業づくりを行うとともに、市民あげて篠山の企業を応援していくことが必要です。

具体的な取組の提案として

1 企業からの出前授業、交流会

電気工事組合の組合員が毎年、篠山産業高校で実際の仕事を体験したり、話し合ったりする機会として交流会を開催しています。こういった交流の機会を増やすことや、市内高校での生徒たちの発表の機会に企業が参加する等の取組を増やしていくことが必要です。

2 企業に気軽に行ける環境づくり（企業訪問の日）

就職に影響力のある進路指導担当の教職員や、保護者を対象として「企業見学会」を開催しています。参加者からは「参加していい勉強になった」等の意見が出される一方で、参加は大変少ない状況です。

- ・自由に企業訪問できる「企業訪問の日」

3 動画を活用した企業紹介

「誰もが使ったことのある商品」「誰もが知っている機械の部品」など、市内には世界的な技術を誇る魅力的な企業がたくさんあります。その技術が一目で分かる動画を作成し、見てもらうことでより企業の魅力を知ることができます。

